

若手で創る

CSRの和

# YAGO

2025.3

41



4月 PJ年間の

本プロジェクトの約束として

毎月の会議を円滑に進める

- ① 議題を明確にする
- ② 会議のセッティング
- ③ タイムキープを行う

大人数で勢力はあるが、コ

気候正義のミカタ -CSR 報告会 2024-

インターン生 佐藤のavanti様 interview



大川印刷

OHKAWA PRINTING, SINCE 1881

横浜市SDGs認証制度



(横浜市SDGs認証制度 / 私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。)

# 気候正義のミカタ

## — CSR 報告会 2024 —

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2019年から中止されておりましたCSR報告会が、5年ぶりの開催となりました。昨年末にスローガン・バリューとして設定した“Do The Right Thing—正しいことをやろうぜー”に基づき取り組んできた活動を振り返ります。

今回のCSR報告会の取材を通じて、これまで大川印刷が大切に育んできたご縁や、社会に与えてきたインパクトを改めて感じることができました。こちらのYAGOでは、そんなCSR報告会の様子を皆様にご共有いたします。(インターン大橋)



社長あいさつで登壇する大川

### 考えることをやめない

昨年末、スローガン、バリューとして発表しました“Do The Right Thing—正しいことをやろうぜー”のもと取り組んできた活動を振り返り、“できたこと”、そして“まだできていないこと”をそのまま皆様にお伝えいたします。「何が正しいか」を判断することはとても難しいです。しかし考えることを諦めず行動して行きます。

本イベントには、お取引の有無に関係なく日頃お世話になっている多くの方々にお越しいただいております。

環境・社会のために私たちに取り組んできたことをこのCSR報告会を通してご覧頂き、今後のためのヒントのひとつにでもなりましたら幸いです。

### 5年ぶり100名以上が参加

2024年11月12日、当日は、オンライン配信も含め、100名以上の方々にご参加いただきました。従業員が注力してきた環境や社会、会社に対する取り組みをご紹介させていただくとともに(右ページ参照)、報告会後には参加者の皆様同士がつながる交流会の場を設け、多くの方々がパートナーとして環境意識を高める非常に貴重な時間となりました。



- |   |   |
|---|---|
| 1 | 2 |
| 3 | 4 |
- 1 ニュースパーク(日本新聞博物館)でのリアル開催
  - 2 司会の高橋と松尾
  - 3 会場入り口で皆さまをお出迎え
  - 4 物販のコーナーも

### CSRとは?

「企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility)」を意味します。近年は、社会貢献的な意味合いだけでなく、倫理観や信頼性、人間的側面として持続可能な調達をしているかの指標ともされるようになりました。

### キニナル! インターン大学生の突撃ミニインタビュー ~ SUN 所属 草間 編 ~

Q: なぜ大川印刷では、中小企業ながら環境に対する大きなアクションを起こすことができるのでしょうか?

A: 大川印刷は「環境印刷」に取り組み、石油系溶剤不使用のインキの使用を推進するなど、自分たちで働く環境を改善してきた歴史があります。「自分たちにもできる」「自分たちがやらなきゃ」という体験が、本業を通じて社会課題解決に取り組む姿勢や組織文化を醸成させてきたと感じています。



報告会に登壇する草間

### プロジェクト紹介1

#### シン・気候正義のミカタプロジェクト



「脱炭素の取り組みによって環境保全と利益創出を両立させる」ことを目的に、“業務内でのCO<sub>2</sub>排出量の見える化”、“脱炭素関連のセミナー開催”などの取り組みに注力してきました。さらに会社全体で取り組んできた事業活動内で排出されるCO<sub>2</sub>やインキのカーボンオフセット、FSC®森林認証紙の使用率93%<sup>\*</sup>達成なども踏まえ、令和5年には『気候変動アクション環境大臣表彰』を受賞しました。今後は、外部への脱炭素関連情報の発信を通じて、さらなるインパクト創出に努めます。

※ 2024年度3月現在

### プロジェクト紹介2

#### Triple Arrows プロジェクト



「業務効率アップを推進し、コスト削減に努める」ことを目的に“社内の環境整備”、“業務の見える化”、“業務の円滑化”に注力してきました。複数の部署を巻き込みながら業務プロセスや使用する資材の量が適切かどうかを確認・改善するとともに、日々の目標管理に関する新たな制度“セッションシート”を導入することで、社員の業務に対する意識改革を行っています。今後も引き続き、お客様や社会に貢献できる会社になれるよう会社全体で注力してまいります。

### プロジェクト紹介3

#### スキャニング事業—新たな時代を切り開く—

「お客様の“できたらいいな”を叶える事業」として、4台のスキャナーを活用したスキャニング事業をスタートしました。日本導入3台目となるSCAN ROBOTをはじめとしたスキャナーにより、膨大な資料や文書のデジタル化を実現することで、時間的・人的コストを削減することが可能です。実際の事例として、学校誌(全1024ページ)をスキャンし、文書をデジタル化し特定のワードを検索、作業の効率化に貢献しました。

スキャニング事業について詳細はこちら→

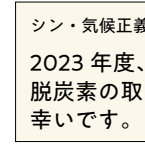


4台のスキャナーが稼働中

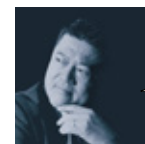
### 報告会終了後社員コメント



Triple Arrows プロジェクトリーダー <sup>かんだ</sup> 上田さん  
ご来場くださった皆さま、オンライン視聴してくださった皆さま、そして会場となりました日本新聞博物館の職員の皆さまに心より御礼申し上げます。次回は、内容、運営など更にレベルアップした報告会を開催できるよう、従業員一丸となって努力してまいります。



シン・気候正義のミカタプロジェクトリーダー 佐々木さん  
2023年度、気候正義のミカタプロジェクトの活動報告をさせていただきました佐々木と申します。脱炭素の取り組みは社会全体で取り組む問題です。今回の活動報告が皆様の脱炭素活動のヒントになれば幸いです。



シン・気候正義のミカタプロジェクト幹事 中橋さん  
久しぶりのCSR報告会でしたが、その間に当社が取り組んで来た活動などをステークホルダーの皆様にお伝え出来てとりあえずホッとしています。取り組みは今後も止める事なくチャレンジし発信していきます。

# インターン生 佐藤の avanti様 interview

こんにちは！大川印刷インターン生の佐藤です。  
私は編み物が趣味なのですが、糸を選んでいるとオーガニックという言葉を目にすることがあります。  
オーガニックについて調べると、ファッション業界が環境汚染産業と言われていることを知りました。  
そこで、オーガニックコットンビジネスの先駆者である株式会社アバンティの奥森秀子社長に環境とモノづくりについて聞いてきました。

## 株式会社アバンティ

1985年9月4日設立  
オーガニックコットン(無農薬有機栽培綿)  
原綿の輸入販売、糸・生地 of 企画製造販売、  
オーガニックコットン製品の企画製造販売、  
国産綿栽培事業、再生(リコットン)事業を手掛ける  
1996年には自社ブランド「PRISTINE(プリスティン)」が誕生  
肌にも心にも優しい製品が多くの人に選ばれている



一オーガニックコットンビジネスを始めた当初は地球・環境にやさしいというコンセプトに疑問を持つ方も多かったそうですが、時代の変化とともにアバンティ様に対して社会や消費者から向けられる眼差しに変化がありましたでしょうか。

**奥森さん** 先日、アバンティが創立40周年を迎えました。そこで振り返りをする機会があり、資料を含めて振り返りをしました。そこでふと気が付いたのですが、変わっていないのです。私たちのフィロソフィーはもちろん、それを形にしたものである製品もカテゴリズも変わっていないのです。デザインが少し変わるとかはありますが、私たちのメッセージは変わっていないということを目の当たりにしました。では、何が変わったのか。それは環境です。本当に悲しくて残念なことですが、私達を取り巻く環境が年々悪い方に変わっています。地球が悪いわけではなく私たち人間が地球環境を変えてきてしまいました。そして、その変化を感じて「このままではいけない」と問題意識を持った人の中に、それまでの綿の生産が環境に悪いものであったということを知った人が「地球・環境にやさしいものづくりをしているのならこの会社の製品を買ってみよう」と選んでくれたのではないかと思います。

あとはコロナです。当初、世界中の人が生きるか死ぬかというくらいのことを感じた中で、何が大切なんだろうということを考えさせられました。多くの時間を家で過ごさなければならなかったため、それまで見て見ぬふりをしてきた様々な問題に対して向き合わざるを得ない状況だったと思います。自分自身や家族や自分の未来について向きあったことで地球の未来を考えるということにつながったのではないのでしょうか。もちろんコロナが



(左から) 弊社社員梶原、奥森社長、インターン生佐藤 ©avanti inc

いいものとは言いません。とても辛かったし大変でした。けれども、そういう機会を作ってくださったのかなという風に思う所があります。見えるものだけ見るのではなく、見えないものも大事ということに多くの人が気付かれました。だからその時は売り上げがすごく伸びました。もっと前に買ってくださいますよと思うこともあるんですけど(笑)でもその機会が皆様が大切なものに気づかれたのではないのでしょうか。

一アバンティ様が設立されてから9年後の1994年に糸、生地、製品までの一貫供給体制が確立したということでしたが、その経緯や思いについてお聞かせください。

**奥森さん** 今でも世界の中でオーガニックコットンビジネスをしている企業はすごく少ないです。ということは、その当時はもっと稀なことでした。なので一貫供給でやらざるを得なかったというのが正しいかなと思います。オーガニックの証はすべて顔が見えるいうということ、つまりトレーサビリティです。「いつ誰がどこで作っているから大丈夫だよ」と言えるようにするには自分たちでやるしかなかったのです。でも今より会社が小さかったときに繊維産業が担うことをすべてしなくては行けないというのは大きなリスクでした。「こんなことしてたら潰れますよ」と皆さんおっしゃいます。でもそうせざるを得ないといえますか。それまでの綿の生産がどれほど環境に悪いのかを知ってしまったからには、健やかな作り方で環境に良いものを作るというのは当たり前ではないですか？そこにビジネスになるとか儲かるのかという可能性を感じられなかったとしても絶対に私達の未来につながるという思いがありました。ただ、一方でアバンティは企業なので利益を上げない

と企業として動き続けることができません。私たちにとって利益は血液です。体を巡る血液がなければ体を動かすことはできません。それと同じように儲からない会社では、誰にも仕事をしたいと思ってもらえません。利益を上げることは事業を持続させてくれるという意味でサステナブルなのです。

なので一番考えるのはみんなの幸せ、従業員の幸せ、作業をしてくださる人の幸せです。でもできてない…(笑)朝は「よしやるぞ!」と言って手を合わせて来るんです。でも帰ると「ああだめだった」「これができなかった」と毎日反省の日々です…(笑)  
一大川印刷のインターンシップで脱炭素について学びました。脱炭素に向けて取り組まれていることはありますか。

**奥森さん** アバンティコットンクラブというのを立ち上げて「国産綿プロジェクト」を行っています。「国産綿プロジェクト」では全国で綿畑を作り、私たちのブランドのモノ作りが出したCO<sub>2</sub>を畑に対してニュートラル化しようと動いています。今年は全国37拠点で綿を作ってくださいしています。実証実験をして今年で3年目になり、ある程度、畑が蓄えられる炭素量のデータが出てきたので、私たちが作り出しているCO<sub>2</sub>の量を明らかにしてニュートラル化を目指しています。

ほかに、「国産綿プロジェクト」には農家さんが儲かる仕組みを作るという目的もあります。昔は日本でもたくさん綿を作っていましたが高騰で農家さんが減っています。そこでブランドのモノづくりで出た炭素量を畑で蓄えられる量だけ農家さんから買い取ることで儲かる仕組みを作ることが出来ます。それに、カーボンニュートラルを達成して余剰分が出れば、その分をほかの企業に売ってもできるのでさらに農家さんにお金が入り国産綿の生産サイクルが活性化できます。これから綿の枯渇が予想される中で、日本で綿の生産を増やすことは脱炭素以外にも大きな意味があると思います。

一環境に正しい製品はそうでないものよりも高価になってしまいがちで、サステナブルな消費を狭め



アバンティコットン倶楽部 ©avanti inc

てしまうところがあると思いますが、この点についてなにか思われることはありますか？

**奥森さん** たしかに私たちの作るものは高く買えないと言われます。けど、そんなことはないのではないかと思います。昔、初任給が10万円もない時代に、私はロレックスの時計がどうしても欲しくて頑張って貯金をして買いました。洋服も、当時はファストファッションがなかったので高かったですが、それも貯金をして買っていました。そしてその時買ったものは今でも着ています。最近ではファストファッションの台頭で安くある程度の品質のものがすぐ手に入るようになりましたが、安さだけが価値ではないです。なので何が高く何が安いのか一度立ち止まって考えればサステナブルな消費はできると思います。

それに、化石燃料の枯渇が危惧されている今の状況では、おのずと長く愛せることを価値とする時代が来ると思います。確かに安いものが流通することで多くの人がきれいなものを着られる時代になったけれどそれは持続可能ではないです。やはり長くものを愛して使う生活のほうが素晴らしいと思います。

そこで私たちは本当に必要なものを、愛をこめて使う価値をメッセージとして伝えるためにお直しをしています。無料のものもあれば有料のものありまして例えば、白い服を汚してしまったら有料で好きな色に草木染めができるので長く使い続けることができます。最近では依頼が多く届くようになって、買って、使って、直して、また使うというサイクルが回るようになってきました。

一最後にこれからの地球を担う10代、20代に何かメッセージがあればお願いします。

**奥森さん** 夢と志を持って大いにチャレンジしてほしいです。全員とは言わないけれど堅実すぎると思いませんか？そんな世の中にした大人がいけないというのも事実なのですが、人口問題とか環境問題とか心配することも多いけれど、発想を大胆にもって、人間として生を受けたからには幸せになってほしいと思います。お金を生み出す方法はたくさんあるからそれより楽しんでほしいと思います。



奥森 秀子 社長 ©avanti inc

## インターン生紹介



関東学院大学 3年

### 佐藤 はるの

大川印刷のインターンシップでwGPでの研修や工場見学を通し様々なことを見聞きさせていただきました。その中でも大きな活動目標としていたアバンティ様への取材訪問の記事をこの社内報 YAGO に掲載させていただきました。私は取材訪問の後それまで以上に環境のことや未来のこと、身に纏う洋服のことを真剣に考えるようになりました。この記事を読むことが環境や衣服について真剣に考えるきっかけになれば嬉しいです。



横浜市立大学 4年

### 大橋 希海

元々広告やアートが好きで、印刷業界に興味を持っていたこと、そして文章を書くスキルを向上させたい! という思いから、大川印刷でインターンをさせていただくことになりました。現在はこちらの社内報YAGOの作成に取り組んでおりますが、研修中の工場見学に始まり、あらゆる場面で社員の皆様の環境意識の高さをひしひしと感じており、目の前の課題への向き合い方を日々勉強させていただいています。こちらのYAGOを通して、大川印刷が行っているアクションや、大川印刷の社会課題や環境問題に対する向き合い方について共有させていただけますと幸いです。

## 次号ヨコク…大川印刷植樹の歩み

大川印刷の植樹活動について、それまでの経緯や最近の活動などを踏まえながらひも解きます。最近ではフィリピンでの植樹活動も…。

大川印刷が植樹を通じて得られた人とのつながりや今後アプローチしていく社会課題について掲載予定です。



## 【 SNS で大川印刷の情報発信中! 】



大川印刷 HP



with GREEN PRINTING

編集人 株式会社大川印刷  
大川 哲郎  
編集長 大橋 希海(インターン生)  
佐藤 はるの(インターン生)  
発行元 株式会社大川印刷

◆CHESS(本社・工場)  
〒245-0053横浜市戸塚区上矢部町2053番地  
TEL: 045-812-1131 (代) FAX: 045-812-1135

◆with GREEN PRINTING  
〒220-0011横浜市西区高島2-14-12 ヨコハマジャスト2号館3F  
TEL: 045-441-2011 (代) FAX: 045-441-2014

URL: <http://www.ohkawa-inc.co.jp>  
お問い合わせ・ご意見・ご感想は…  
[magokoro@ohkawa-inc.co.jp](mailto:magokoro@ohkawa-inc.co.jp) まで



MUD  
P10461

